



発行所
宮城県小牛田農林高等学校内
宮城県学校農業クラブ連盟



県連農ク会長 鈴木 翔太

「快挙に敬意を」

初めに、皆さんのご協力のもと宮城県学校農業クラブ連盟機関誌「FFM」を発刊できましたこと感謝申し上げます。また、「宮城の大地から咲かせようー農クの花をー」をはじめとする三つのスローガンのもと令和七年度の活動を終えることができましたことに感謝申し上げます。

県連会長としての一年間を振り返ってみると、出会いや学びが多岐にわたります。私自身は、会長として各種競技会に参加させていただきました。さらに、日連や東北連の代議員会、大会にも参加させていただき、他県のクラブ員とも交流を深めることができました。

出たての輝かしい成果、またそれ以上の成果を得られるように願っております。私自身、宮城県連盟の農業クラブの活性化を如何に図るべきか、色々と検討してきました。代議員会では、各校の代表者の皆さんとさまざまな協議し、同一の農産物を持ち寄り、地域の違いでの生育の違いや各校の栽培方法の違いを学ぶための機会、「農産物生育状況報告会」を初めて実施しました。残念ながら、開催の時期にはインフルエンザが蔓延しており、持ち寄った農産物を試食することはできませんでしたが、各校の栽培の

す。今年度の輝かしい成果、またそれ以上の成果を得られるように願っております。私自身、宮城県連盟の農業クラブの活性化を如何に図るべきか、色々と検討してきました。代議員会では、各校の代表者の皆さんとさまざまな協議し、同一の農産物を持ち寄り、地域の違いでの生育の違いや各校の栽培方法の違いを学ぶための機会、「農産物生育状況報告会」を初めて実施しました。残念ながら、開催の時期にはインフルエンザが蔓延しており、持ち寄った農産物を試食することはできませんでしたが、各校の栽培の



宮城県連盟成人代表 宮城県小牛田農林高等学校 校長 長内 志郎

「激変する時代の中で」

様子を知らず、今年度も全国的に注目される輝かしい結果を残しました。また農業鑑定競技会野菜の部では宮城県農業高等学校、畜産の部では小牛田農林高等学校が優秀賞をそれぞれ受賞しました。受賞されたクラブ員の皆様、指導をいただいた先生方、支えてくださった関係者の皆様にあらためて感謝いたします。

今年度、宮城県学校農業クラブの各種競技会等にあたり、御尽力いただきました関係団体の皆様、審査員の皆様、運営担当校の先生方、クラブ員の皆様に感謝申し上げます。選手の皆様が互いの技術を競い、自らの考えや研究成果を堂々と発表する姿を拝見させていただき、農業の魅力や大切さを再発見するとともに、農業を学ぶ皆さんの逞しさを感ずるようになりました。選手の皆様は、これまでに向けたステップアップにつながることを切に望んでいます。

月に実施予定の大会が悪天候により延期となってしまいました。宮城県測量設計業協会の皆様のお力添えにより、八月に日を改めて実施することができました。重ね重ね、運営に御尽力いただいた担当校、審査員、関係者、参加された選手の皆様改めて感謝を申し上げます。有り難うございました。

これからは県内各単位クラブで連携をとり、お互い切磋琢磨しながら活動するとともに、地域の方々と指導して下さる先生方、そして何よりお互い協力し合うことのできるクラブ員の仲間への感謝の気持ちを忘れず、一致団結して農業クラブの魅力向上と、さらなる発展につなげていきたいと思います。

大会スローガン

最優秀賞

「宮城の大地から咲かせよう！

農ウの笑顔の花を」

石巻北高校

総合学科食農系列

三年 小松 直寛

優秀賞

「若人よ羽ばたけ明日の農業へ」

小牛田農林高校

農業技術科農業科学コース

二年 車塚 颯太

「我がが創る 自然に生きる」

南郷高校

産業技術科 一年 佐藤 大仁

令和七年度 各種発表会

おもしろ競技会成績一覽

◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：特別奨励賞

プロジェクト発表会

十二月十一日(木) 宮城県農業高等学校

◆分野Ⅰ類「農業生産・農業経営」

摘果りんごの可能性

「捨てる」を「活かす」へ

佐藤 綾真 他六名(大河原産業)

「ロッサビアン」を野菜班の名産にしよう
ver4「販売促進のための取り組み」

岡本 鳳聖 他六名(小牛田農林)

○エバとち

氏家 凜 他九名(農業)

○愛と辛さを求めて

「オリジナル」味唐辛子

ブランド化プロジェクト

阿部 七海 他九名(大河原産業)

陸稲で目指す省力化

畑地を利用した無灌水栽培に挑戦

石田 大輝 他六名(小牛田農林)

マイコソ菌を利用した米づくり

斎藤 俊輝 他一名(伊具)

はるひ理論

「隔年結果を防ぐりんごの新しい

施肥管理」

及川 晴季 他三名(加美農業)

○Re：温故知新

「肥料削減と深層元肥」

水島 優太 他九名(農業)

高温障害に強いイネの栽培を目指して

高橋 もえ 他三名(南郷)

◆分野Ⅱ類「国土保全・環境創造」

○持続可能な「加美農業米」生産を目指して

水田の環境保全活動の取り組み

増子 晴琉 他五名(加美農業)

○青の革命

「水質改善と普及活動」

庄子 怜未 他六名(農業)

Let's SAUNA

「汗がたたく新建材の輪」

岡崎 良太郎 他六名(大河原産業)

学校を快適空間に

「臭いにおいとほおさらば」

石塚 愛翔 他六名(小牛田農林)

○りんごで創る循環型未来

星 迅乃丞 他九名(加美農業)

◆分野Ⅲ類「資源活用・地域振興」

心繫

「心と人を繋ぐ地域創造プロジェクト」

鈴木 羚矢 他六名(大河原産業)

○咲かせたいのは桜と未来

小野 結衣 他七名(農業)

○しいがた

「廃棄しただけがとくる循環型畜産」

車塚 颯太 他九名(小牛田農林)

ドライフラワーの作成

一條 にいな 他三名(伊具)

○#チーム獣害

鈴木 啓太 他八名(加美農業)

意見発表会

七月十五日(火) 大河原町中央公民館

◆分野Ⅰ類「生産・流通・経営」

○未広がり仙台牛

「私が拓く畜産の未来」

南條 匠極(農業高校・農業)

農家の息子として

由利 佑(小牛田農林・農技)

○加工で可能性を無限大に

山内 春奈(加美農業・農業)

「祖父のために出来ること」

鈴木 伽歩(巨理・食品)

○やさいを奏でる

氏家 愛緒(大河原産業・食農)

◆分野Ⅱ類「開発・保全・創造」

○真実の環境

鈴木 傑心(農業・農業)

○「ゆい」に学ぶ私の環境保全戦略

鈴木 翔太(小牛田農林・農技)

危険が潜む歩道

後藤 悠志(伊具・総合)

○祖父の言葉の意味を知るために

「次世代林業を目指し、未来を創造する」

鈴木 羚矢(大河原産業・環境)

農業の楽しさを知ろう

「森林資源を守るために」

高橋 銀河(加美農業・機械)

◆分野Ⅲ類「ヒューマンサービス」

「故郷と私の夢」

佐々木 愛華(巨理・食品)

この一年間で学んだこと
三春 綾音(大河原産業・食農)
食品製造を活用した地域貢献活動を目指して

佐藤 叶真(石巻北・総合)

◎招き豚〜美里町に幸せを運ぶ〜

車塚 颯太(小牛田農林・農技)

レストランYAMAKI

〜丸森から広める私の夢〜

八巻 ほのか(伊貝・総合)

◎食育の大切さ

阿部 咲輝子(加美農業・生活)

◎食育を通して学んだこと

後藤 夕夏(登米総合・農業)

歴史ある農村とその限界集落について

岡本 幸樹(南郷・産技)

平板測量競技会

八月二十八日(木) 加美農業高等学校

◎農業 A

星 晴斗・平野 蒼大・三浦 健太

◎農業 B

横井 蒼志・高橋 颯太・武川 昊雅

◎加美農業

穴戸 悠太・鈴木 大輝・高橋 章良

小牛田 A

橋本 瑛太・藤本 操音・由利 佑

小牛田 B

大和田 深太・菅原 瑛大・三浦 悠平

農業情報処理競技会

八月四日(月) 巨理高等学校

加美農業 阿部 咲輝子・木村 さくら

南 郷 ○高橋 もえ・鈴木 雄大

小牛田 ○岩淵 亮汰・渡邊 将仁

農業 太田 侑吾・斎藤 茉緒

登米総合 ○八乙女 星

巨 理 佐々木 愛華・浅野 慈恩

家畜審査競技会(肉用牛の部)

七月三十日(木) みやぎ総合家畜市場

南 郷

京極 未々愛・本間 唯穂・柳田 恵絆

◎伊 貝

○八巻 ほのか・齋藤 優人・○高田 光希

◎小 牛 田

浅野 瑞葉・菊池 陽向・野村 緋夏

大河原

齋藤 怜音・大槻 結花・遠藤 望美

農 業

村田 陽生・○森合 瑠月・田中 徠雅

◎加美農業

渋谷 朋希・佐藤 暖将・早坂 健将

登米総合

小川 栞穂・小野寺 輝・熊谷 璃緒

家畜審査競技会(乳用牛の部)

九月二十四日(水) みやぎ総合家畜市場

◎登米総合

小川 栞穂・○熊谷 璃緒・小野寺 輝

伊 貝

高田 光希・八巻 ほのか・阿部 由奈

◎加美農業

佐藤 暖将・早坂 健将・渋谷 朋希

小牛田

氏家 陽菜・大友 心咲・佐藤 心虹

農 業

星 晴斗・中山 彩葉・石井 大晟

南 郷

京極 未々愛・本間 唯穂・柳田 恵絆

○大河原

内海 彩花・○岩佐 結衣・○寺田 結衣

FFJ特級位検定

最優秀賞

山本 柚花(農業高校・園芸)

タイトル「桜色の未来」

FFJ上級位検定

小牛田 三十四名

伊 貝 三名

農 業 四名

合計 四十一名

全国大会西関東で開催

受賞者

◆プロジェクト発表会分野Ⅰ類「農業生産・農業経営」

最優秀賞(農林水産大臣賞)

水稻深層元肥〜装置開発と新施肥法〜

水島 優太 他9名(農業高校)

◆プロジェクト発表会分野Ⅲ類「資源活用・地域振興」

最優秀賞(文部科学大臣賞)

桜色の未来 山本 柚花 他9名(農業高校)

◆意見発表会分野Ⅰ類「農業生産・農業経営」

最優秀賞(農林水産大臣賞)

末広がり仙台牛〜良質稲藁で拓く未来のブランド牛〜

南條 匠極(農業高校)

◆意見発表会分野Ⅱ類「国土保全・環境創造」

最優秀賞(文部科学大臣賞)

真実の環境 鈴木 傑心(農業高校)

◆農業鑑定競技会「野菜」

優秀賞 藤澤 茉由(農業高校)

◆農業鑑定競技会「畜産」

優秀賞 車塚 颯太(小牛田農林高校)

全国大会プロジェクト発表会 I類で最優秀賞を受賞して



宮城県農業高等学校
佐藤 裕 人

私たち作物部門は、令和七年度農業クラブ宮城県大会プロジェクト発表I類において最優秀賞を受賞しました。東北大会、全国大会へとつながる重要な大会であり、これまで先輩方が築いてきた伝統を守り、さらに前へ進めなければならぬという強い責任と緊張感の中で挑戦しました。大会に向けて、パワーポイントや演示内容を何度も見直し、言葉の選び方や説明の順序まで細かく確認しました。時には意見がぶつかり合うこともありましたが、そのたびに話し合いを重ね、仲間全員で納得できる形を追求してきました。練習では思うように成果が出ず、不安や焦りを感じる場面もありましたが、先輩方からの経験に基づく助言や、山根先生・須田先生の的確な指導が大きな支えとなりました。本番では大きな緊張の中でも、これまで積み重ねてきた努力を信じ、全員が落ち着いて発表をやり切ることでできました。結果発表で最優秀賞が告げられた瞬間、仲間と喜びを分かち合い、これまでの苦労が報われたと実感しました。この受賞は私たちだけの力ではなく、多くの支えがあつてこそその成果へ向けてさらに成長し、作物部門の

想いを後輩へと受け継いでいきたいです。

全国大会プロジェクト発表会 III類で最優秀賞を受賞して



宮城県農業高等学校
山本 柚 花

私たち桜プロジェクトチームは、「桜色の未来」をテーマに、学校や地域、これまで関わってきた方々の思いを背負い、全国大会に挑みました。大会では、高温や乾燥の影響で全国各地の桜が弱っている現状を受け、「桜を次の世代につなぎたい」という思いから研究を進め、東京大学やJICAなどの助言を得て、酢酸と使い捨てカイロを活用した「桜色活力剤」を開発しました。この活力剤を用い、被災地や観光名所で桜を守りながら、地域と協力して活動を広げる取り組みを発表しました。

全国という舞台に立つまで、多くの時間と努力を積み重ね、本番直前まで発表や質疑応答の練習を重ねました。本番では、支えてくださった方々や東北大会で競い合った他校の思いも応援を力に変え、笑顔で発表することができました。結果発表で名前が呼ばれた瞬間、十四年間続いてきた桜の研究で初となる最優秀賞を受賞し、これまでの取り組みが間違っていなかったと心から実感しました。

この成果は、仲間同士が支え合い、同じ目標に向かって全力で取り組んできた結果です。多くの出会いや支えに感謝し、仲間に頼ること、人とのつながりを大切に、これからも前向きに歩んでいきたいです。

全国大会意見発表会I類で 最優秀賞を受賞して



宮城県農業高等学校
南 條 匠 極

原稿内容は、肥育牛が肝臓疾患で病畜となった経験から始まりました。その牛は合格発表の日に父が記念に競り落とした宮城県農業高校の牛で、結果は約百万円の赤字。経済的損失以上に牛への申し訳なさを感じ、原因と対策を探しました。山形県の齋藤農場で研修し、良質の粗飼料、特に稲わらが重要と学びました。我が家では粗飼料生産を見直し、稲わらの基準を設定。嗜好性の高い稲わらも肥育牛に効果があり、他農家からも高評価。稲わらを多く与えることでBMS8となり、最高等級には届かないものの、健康で事故率を減らし、持続的な経営を実現したという内容でした。

昨年の全国で発表した内容が頭に残っていましたが、今年原稿はさらに自分の思いが強く出せる内容で挑みました。そのために、我が家で行っている当たりまえの

ことを隅から隅まで調べ直ししました。粗飼料生産など実践できることは家族と肩を並べながら行い、とてもしんどかったです。そうして完成した原稿があればあとは、私が大切にしている「発表を楽しむ」をモットーに頑張るだけでした。こうした取り組みが全国大会二連覇につながったと感じています。これまで支援してくれた多くの方々へ感謝し今後、仙台牛の普及に力を尽くしていきたいと考えています。

全国大会意見発表会 II類で最優秀賞を受賞して



宮城県農業高等学校
鈴木 傑 心

私は、農業クラブの大会で意見発表に出場するとは、高校二年生の頃には想像もしていませんでした。二年生では先輩方と共にプロジェクト発表の発表者を務めており、三年生でも同じ道を歩むものだと思っていたからです。

そのため、テーマ、原稿作りは時間がかかりました。原稿は何度も書き直してわかりやすいようにしました。校内審査、校内予選を経て、県大会に進むことができました。しかし、練習ではうまく発表ができず、素直に喜ぶことはできませんでした。だからこそ宮城県大会では後悔のない発表をしようとして決意し、本番三週間前から原

稿を読み込み、二週間前から本格的に練習を重ねました。

発表当日、前の発表者の良い点改善点を観察し、自分の発表に活かしました。本番では落ちついて楽しく発表できましたが、質疑応答は自分なりの工夫を加えて答えられたと感じています。先生方からも高い評価をいただき、安心することができました。

結果発表では最優秀賞を受賞することができました。この経験を糧に、将来は百ヘクタール規模で環境にやさしい稲作を行う米農家になることが私の目標です。ここまで導いてくださった先生方、先輩方への感謝を胸に、これからも夢に向かって進みます。

全国大会農業鑑定競技 野菜の部で優秀賞を受賞して



宮城県農業高等学校
藤 澤 茉 由

今回、農業クラブ全国大会西関東大会の農業鑑定競技会において、優秀賞を受賞することができ、達成感を感じました。大会に向けた学習では農業に関する幅広い知識が求められるため、覚える内容が多く、覚えられないか不安な気持ちがありました。そのため、教科書や教科書ではわかりづらいことや写真がない場合は、インターネットを駆使しながらノートにまとめて、少しでも暗記しやすいように工夫

をしました。自分でまとめたノートを何回も見て、繰り返し学習してきました。こうした日々の積み重ねが本番で落ち着いて問題に取り組み力がついたと感じています。今回の優秀賞の受賞は、私の努力だけではなく、指導してくださった先生や、支えてくださった先生と生徒の皆さんのおかげだと感じています。農業鑑定競技を通して、身につけた知識や学びの姿勢を、今後の学習や将来に活かしていきたいです。

全国大会農業鑑定競技会 畜産の部で優秀賞を受賞して



宮城県小牛田農林高等学校
車塚 颯 太

このたびは、日本学校農業クラブ連盟全国大会農業鑑定競技会畜産の部において、優秀賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に感じております。この成果は、日頃からご指導くださった先生方、共に畜産を学んだ仲間、そして家族の支えがあつてこそ得られたものです。競技に向けた学習では、家畜の品種や特徴、飼養管理などの専門的な知識を幅広く学習しました。理解が追いつかず苦労することもありましたが、畜産担当の先生からの指導や畜産の授業の内容と照らし合わせながら継続して学習することで理解を深めること

ができ、学ぶ楽しさと達成感を得ることができました。この経験を通して、将来は畜産についてより専門的・科学的に学びたいという目標が明確になりました。今回の受賞を励みに、大学進学後は高校で培った農業の基礎

知識を土台として課題解決力を身に付け、持続可能な地域循環型農業の実現に貢献できる人材へ成長していきたいと考えています。最後になりましたが、支えてくださったすべての方々に深く感謝申し上げます。

山形県で東北大会開催

◆プロジェクト発表会

分野Ⅰ類 「農業生産・農業経営」

最優秀賞 Re:温故知新〜深層施肥〜

皆川 快葵・水島 優太・櫻井 瑠依

他7名(農業高校)

分野Ⅱ類 「国土保全・環境創造」

優秀賞 #ZEROMAIプラ〜環境革命〜

庄子 怜未・小川 陽己・樋口 世夏

他7名(農業高校)

分野Ⅲ類 「資源活用・地域振興」

最優秀賞 桜色の未来

山本 柚花・小野 結衣 他6名(農業高校)

◆意見発表会

分野Ⅰ類 「農業生産・農業経営」

最優秀賞 末広がり仙台南

良質稲藁で拓く未来のブランド牛

南條 匠極(農業高校)

分野Ⅱ類 「国土保全・環境創造」

最優秀賞 真実の環境

鈴木 傑心(農業高校)

分野Ⅲ類 「資源活用・地域振興」

優秀賞 一石三鳥 幸せを運ぶ招き豚

車塚 颯太(小牛田農林高校)

東北大会プロジェクト発表会 Ⅱ類で優秀賞を受賞して



宮城県農業高等学校
庄子 怜 未

私たちは、宮城県で開催された農業クラブ県大会プロジェクト発表Ⅱ類に出場しました。発表内容は、田植えの際に使用する肥料の構造・施肥量・施肥位置を工夫することで、窒素の溶出量を抑え、環境保全につなげるという研究です。メンバーは三年生二人、二年生四人、一年生三人の計九人で構成されていきました。限られた時間の中ででしたが、大会前の夏休みに集まり、発表練習を重ねて本番に臨みました。

私は昨年度に続き発表者を担当しましたが、他のメンバーの多くは初参加や初めての役職でした。それぞれが練習を通して課題を見つけ、話し合いを重ねながら、全員で一つの発表を作り上げてきました。また、卒業生の先輩方にも練習に来ていただき、具体的なアドバイスやお手本を示してもらいました。本番直前には先生方にも発表を見ていただき、温かい励ましの言葉をいただきました。結果として最優秀賞を受賞することができました。先輩たちが来年度さらに成長してくれることを願っています。最後に、共に励んだⅡ類の仲間、指導してくださった先生方、支えてくださった先輩方へ心から感謝します。三年間、本当に

ありがとうございました。

東北連盟にて取り組み発表 をおこなって



宮城県大河原産業高等学校
小室 光 毅

十月に山形県で行われた、東北連盟活動発表会に参加し、大河原産業高校の取り組みについて発表してきました。発表会では、各学校が長年続けてきた伝統的な活動についての発表があり、自分たちの活動にも取り入れたいと感じるものも沢山ありました。

私たち、大河原産業高校も、大産商での取り組みや、柴田農林高校から引き継いだ一目千本桜保全活動について発表しました。他の単位クラブの発表の中で、同じ農業高校であってもSNSの活用方法や、活動の進め方などが学校ごとに異なっており、それぞれの学校ごとの特色が強くなるのだと知ることができました。そして、身近な課題を自分たちが工夫することによって解決しようとする姿勢に、私自身単位クラブの会長として大きな刺激を受けました。今回の発表会を通して、東北連盟の農業クラブがいかに幅広い活動に取り組んでいるか、そして、同じ高校生がどのようにして農業クラブだけでなく、学校全体を活性化していくかと取り組んでいる

県連行事に参加して

県平板測量競技会で最優秀賞 および全国表彰を受賞して



宮城県農業高等学校
横井 蒼志

今年の測量愛好会の活動を振り返ると、私の心に最も強く残っているのは、農業クラブ主催の平板測量競技会への挑戦です。この大会は、日頃の活動で身に付けてきた測量技術やチームワークを発揮する場であり、仲間と協力することの大切さを改めて実感する機会となりました。

競技会に向けて、限られた時間の中でチーム力と個人の技術を高めるため、日々の練習に真剣に取り組みました。練習前には器具の扱い方や作業手順を確認し、本番を意識して課題を洗い出しました。思うように結果が伸びず苦しい時期もありましたが、原因を話し合い、器具点検や作業前の目標設定などの工夫を重ねることで、少しずつ自信をつけていきました。大会当日は大きな緊張感の中でのスタートとなりましたが、声

のか、その考え方も学ぶことができました。この経験や今回得た学びを生かし、今後より意欲的に活動に取り組んでいきたいと思えます。

県農業情報処理競技会で 最優秀賞を受賞して

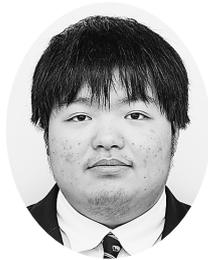


宮城県小牛田農林高等学校
岩 淵 亮 汰

この活動を通して、私は測量技術だけでなく、計画的に行動する力や仲間と協力することの大切さを学びました。測量愛好会で過ごしたこの一年は、私自身を大きく成長させてくれた一年です。

私が農業情報処理に取り組みむようになったのは、先生からの一言からでした。「情報処理の大会に出てみないか？」と誘われたことです。放課後は部活動の前に、休日・夏休みにも先生方に協力してもらい練習をしました。一年生の時の大会はうまく結果を出せず、入賞することはできませんでしたが、この悔しさがあったからこそ、もっと良い結果を出したいと思い、二年生では前回どかがダメだったのかを先生と話し合い、そこを繰り返し練習しました。その結果、東北大会への出場することができました。しかし、思うような結果が出なかったものとても良い経験になったと思います。三年生で

県家畜審査競技会肉用牛の部で最優秀賞を受賞して



宮城県伊具高等学校
高 田 光 希

は、「絶対に県で最優秀賞を取りたい」と強く思い、他県の過去問や東北大会の過去問でたくさん練習しました。最後の大会ではずっと目標にしていた最優秀賞を受賞することができ、とても嬉しかったです。上位大会が開催されなかったのが少し悔しいですが、三年間農業情報処理を頑張れたのは指導してくださった先生のおかげです。本当にありがとうございます。将来はこの経験を社会がより良くなる方へ活かしたいと思えます。

私は今年伊具高校に入学して、初めて家畜という分野に触れました。農業クラブの様々な大会がある中で、家畜審査競技会（肉用牛の部）に学校代表として選ばれました。本校には家畜はおらず、私自身も間近で牛を見たことがなかったため、とても興味を持ちました。家畜専門の先生に放課後、肉用牛の見方を教えていただき、少しだけ不安が和らいだ気がしました。本番では、先生に教わったことのみで集中して審査をやるうと思いましたが、審査を終えて未経験産牛よりも経産牛の審査に自信が

県家畜審査乳用牛の部で 最優秀賞を受賞して



宮城県登米総合産業高等学校
熊 谷 璃 緒

なく、少し不安になりました。しかし結果は個人最優秀でした。一年生なのに家畜に触れることも初めてな私が最優秀をとることができ、素直に驚きました。また来年も、個人と団体で最優秀を狙いたいと思います。

農業科に入学してから、初めて農業クラブの競技に参加したのが家畜審査でした。肉用牛の部では、校内に肉用牛を飼っていることと事前の勉強会もあり、肉用牛を身近に感じていましたが、乳用牛の部は事前に乳用牛を見ることもないままの大会参加でとても不安でした。

乳用牛の部では、初めて見る大きな乳用牛と、他校の生徒はもっと私よりも乳用牛に関する勉強をしていると思うと、プレッシャーと緊張で体の震えが止まりませんでした。そんな中、肉用牛の部の大会の時に牛の体型で迷った経験があったので、私は一頭一頭観察するのではなく、直感で良い体型だと感じた牛の中で観察し、順位を決めました。緊張はずっと続いていましたが、その後は集中し緊張を和らげることができました。

意見発表大会に参加して



宮城県亘理高等学校
佐々木 愛 華

翌日、家畜審査の結果を知った時には本当に驚きましたが、嬉しくも思いました。直前に自分を信じて集中できたことや、実物を見て勉強できていない中、画像や動画や文章での勉強でも最優秀賞を受賞できたことが私の中でもこれからの自信になりました。そして、今後も農業に関することや農業クラブの大会に積極的に挑戦してみたいと思っています。

県意見発表会は私にとって貴重な経験で、私にとって忘れられない思い出になりました。原稿を読む前、壇上に立った瞬間手が震え、声がかみかみ出せるか不安で胸がいっぱいでした。福島県で生まれ、原発事故によって避難した過去や「被災者だから」という理由で傷ついた出来事を人前で話すことはこれまで避けてきたからです。しかし、発表準備を進める中で自分の思いを言葉にすると気持ち整理され、前を向けることに気づきました。発表中、会場が静まり返り、聞いてくださる方々の視線を感じたとき、「ちゃんと伝わっている」と実感しました。この経験を通して、自分の声が届き、誰かの声に届き、同じ悩みを抱える人の支えになるかも知れないと感じ

じました。今回の発表を通して自分のこれまでの経験を大切に、卒業後の学びを深めていきたいです。

県意見発表会で発表して



宮城県石巻北高等学校 佐藤 叶真

私は、七月十五日に大河原町中央公民館で開催された、県意見発表会に参加しました。私はⅢ類に出場し内容は、プロジェクト学習で取り組んでいる「食品製造を活用した地域貢献活動」について発表しました。県意見発表会は大河原産業高校と石巻北高校の合同開催で、石巻北高校は開会式とⅢ類の運営を担当しました。クラスメイトに支えられながら落ち着いて発表することができました。結果は入賞することができませんでした。発表者が発表を聴いて、学校の取り組みや農業に対する思いを持って取り組んでいることがわかりとても勉強になりました。意見発表会を通して、農業に対する考えを深めることができました。また、意見発表会の経験を今後社会に出ても活かしていきたいと思えます。指導していただいた先生方、応援してくれた皆さん本当にありがとうございます。

県プロジェクト発表会で発表をして



宮城県大河原産業高等学校 阿部 七海

発表会に向けた準備の中で、毎年の最優秀発表校の発表を聞き、準備段階から放たれる雰囲気の違いに圧倒されました。私たちは、ここまでできないのではないかと不安と緊張を感じ続けていました。今思えば、正直、気持ちで負けてしまっていた部分もあったと感じています。しかし、練習を重ねる中で「私たちは私たちにしよう」と、本番に向けて原稿をスムーズに読むことが苦手な自分と向き合い、口をしっかりと開け、ゆっくり、丁寧に聴衆に聞きやすく、心地よい話し方を心がけました。

部活動などで全員が集まる時間を確保するのは簡単ではありませんでしたが、顧問の先生が配慮して時間を作ってくれ、本番まで打ち合わせを重ねることができました。本番では、緊張から制限時間を越えてしまい悔しさが残りましたが、仲間の「大丈夫だよ」という言葉にも支えられ、チームの絆と感謝の気持ちを強く感じた発表会となりました。発表後は先生方から『大産商店の一味唐辛子』を実際に買いたいという言葉も頂き、自分たちの取り組みが伝わったと感じ、とても嬉しく思いました。

県プロジェクト発表会で発表して



宮城県南郷高等学校 高橋 もえ

今年度の県プロジェクト発表会に参加して、一番強く感じたことは伝えることの「難しさ」と「楽しさ」です。

私たちはこれまで課題研究での学習活動を通して、ケイ酸を利用した高温障害に対応する米作りに関する研究に取り組んできましたが、それを限られた時間内に他校の生徒や先生方、審査員の方々に理解してもらうことは想像以上に大変でした。本番までに何度もハイスルを重ね、スライドを調整した結果、当日は大きなミスなく自分たちの想いや研究の成果を伝えることができました。

他校の独創的なアイデアや熱意にも圧倒されましたが、同時に「自分たちも負けていけない」と大きな刺激を受けました。この貴重な経験を今後の活動に活かし、米作りに貢献できるように頑張りたいです。



日本学校農業クラブ連盟 マスコットキャラクター 「のうくっく」

代議員会に参加して



宮城県迫根高等学校 千葉 楓我

二年次から迫根高校アグリビジネス系列の副会長として代議員会に参加してきました。

まず、代議員会では各学校での取り組みやイベントなどの紹介、オリエンテーションを通して代表同士のコミュニケーションを図ることができました。また代議員会の会長、副会長などの役職決め、これからの農業についてなど各種議題の話し合いを行ってきました。学校ごとに行っている行事や特色ある授業など自分の学校とは違う部分を知ることができ自分の学校での活動に生かしていきたいと思えるようになりました。

また、生徒主体での活動だったため、お互い緊張しつつも話しているうちに打ち解け、積極的に話し合いが生まれました。参加した最後の代議員会では各校で生産したネギを持参して特徴や品種について紹介するなど例年にはなかった新しい取り組みも増えました。

代議員会に参加して、各農業高校の活動や目標などを知ることができ、自分の学校に足りないところや工夫していきたい所をたくさん学べる場になったと思います。これからも農業に関心を持っていく生徒が主体的に活動し、農業の発展、振興に努める活動をしていきたいと思えました。

代議員会に参加して



宮城県本吉響高等学校 菅原 和樹

私は、宮城県本吉響高等学校の農業クラブ会長を務めたことで、以前の自分よりも多くの面で成長することができました。農業に関する知識がほとんどなかった私は、会長に就任した当初「緊張」と「不安」が入り交じった気持ちでいっぱいでした。しかし、代議員会に何度も参加するうちに、響高校の代表として出席しているという自覚が芽生え、会長としての使命感を持てるようになりました。

また、発言の場では、自分たちの学校でどのような活動をしているのかを、以前よりも明確に伝えられるようになりました。さらに、十二月に行われたリーダー研修会では、名刺交換やレクリエーションを通して他校のクラブ員と交流し、さまざまなジャンルの話をすることができました。その中でお互いの思いを共有し合い、会長としての自信を深めることができました。

農業クラブの活動を通して、このような貴重な経験を積み、自身が大きく成長できた実感を感じています。この貴重な経験を生かしてこれからも農業分野に関わっていききたいと思えます。

令和7年度 宮城県学校農業クラブ連盟会計収支中間報告書

事務局 宮城県小牛田農林高等学校
自 令和7年4月1日 収入総額 3,319,629円
至 令和8年1月6日 支出総額 1,763,873円
差引残高 1,555,756円

(1) 収入の部 (単位: 円)

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 収入済額, 差額, 摘要. Rows include 繰越金, 会費, F F J バッチ代, 農業教育研究会より, 雑収入, 合計.

(2) 支出の部 (単位: 円)

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 支出済額, 差額, 摘要. Rows include 事務費, 内訳 (備品・消耗品費, 通信費, 雑費, 会議費, 旅費, 事業費, 県大会補助費, 東北大会補助費, 東北夏期研修会補助費, 機関誌発行費, 研修会費, 表彰費, 報償費), 負担金, 内訳 (全国連会員割, 全国連学校割, 機関誌購読料, 全国大会生徒負担金, 東北連会員割, 東北連連割, 東北大会負担金), 指導者養成講座補助, F F J バッチ代, 予備費, 合計.

令和7年度宮城県学校農業クラブ連盟役員

Table listing members: 生徒役員 (会長 鈴木 翔太, 副会長 小椋 奏海, 副会長 斉藤 鈴, 監事 増子 晴琉, 監事 龍田 侑樹, 幹事 佐藤 唯香, 森 颯, 安藤 輝, 鶴島 翼) and 成人役員 (代表 長内 志郎, 副代表 浅野 伸一, 監査委員 奥山 光, 事務局 浅野 武巳, 顧問(会計) 遠藤 稜, 顧問(庶務) 加藤 亘).

令和7年度 宮城県学校農業クラブ連盟 会務・事業報告

(1) 関連事業 県連盟

Table with 4 columns: 月日, 名称, 運営校(会場), 内容. Rows include 第1回代議員会, 第2回代議員会, 意見発表会, 家畜審査競技会(肉用牛), 農業情報処理競技会, 平板測量競技会, 家畜審査競技会(乳用牛), 第3回代議員会, 事前審査会 プロジェクト発表会, リーダー研修会, 指導者研究協議会, 第4回代議員会, F F J 検定上級位審査会, 機関誌発行, 事務引き継ぎ.

(2) 関連事業 東北連盟

Table with 4 columns: 月日, 会務・事業名, 場所. Rows include 第1回代議員会, 夏期研修会, 第76回東北連盟大会, 第2回代議員会, 第3回代議員会.

(3) 関連事業 全国連盟

Table with 4 columns: 月日, 会務・事業名, 場所. Rows include 春季代議員会, 全国大会西関東大会・秋季代議員会.

令和7年度 宮城県学校農業クラブ連盟名簿

Table with 6 columns: No., 高校名, クラブ員数 (男, 女, 計), 学級数, 校長名/会長名, 顧問教師名. Rows list 11 schools and their respective club members and teachers.